

DSD/JICA Project on Disability



Department of Social Development (DSD) / Japan International Cooperation Agency (JICA)
Project for the Promotion of Empowerment of Persons with Disabilities and Disability Mainstreaming

リンポポ州の中学校で障害啓発活動とアクセス調査を実施しました！

2019年8月にリンポポ州コリンズ・チャバネ市内の公立中学校で、障害啓発活動とアクセス調査を実施しました。この活動はプロジェクトの支援で設立された障害者自助グループのメンバーが中学校と調整し実現したものです。



(写真) 「障害はどこにある？」と質問を投げかけるファシリテーター

障害啓発活動には、各学年の代表生徒約100名が参加しました。プロジェクトにて育成された障害があるファシリテーター7名は、障害とは何か、障害はどこにあるか、どのように障害を解消するのかについて、生徒たちと一緒に考えました。車いすの少年の前に階段があり、教室に入れぬ絵を見ながら、障害はどこにあるかを考える演習では、生徒たちが順番に障害があると思う所にポストイットを貼りました。

ある生徒が、教員の絵にポストイット

を貼ると生徒たちは大盛り上がり。エクササイズに参加した教員は、障害のある生徒がいたら、教員や生徒、皆でサポートするべきだ、教員にも生徒にもポストイットを貼ろうと述べ、教室は拍手で包まれました。生徒たちは楽しみながらも、障害は環境や人々の態度にあることに気付いたようです。



(写真) スロープが必要なことを説明する障害者

その後、一部の生徒、教員たちとともに中学校のアクセス調査を行いました。調査では、学校内にスロープがないこと、障害者用トイレがあるもののカギがかかっており使用できないこと、障害者用駐車場がないこと、標識の情報が小さくわかりづらいことなどが発見されました。これらの調査結果は、学校長や関係者に口頭で説明され、後日、提言をまとめた報告書が提出される予定です。学校長は障害者グループの学校訪問を歓迎し、調査結果を基に

学校環境を改善すると約束しました。
クワズルナタル州でアクセス調査員育成研修を開催しました！

2019年10月に、クワズルナタル州でワーキンググループを対象としたアクセス調査員育成研修を実施しました。

初日は障害者権利白書など南アフリカの政策や、合理的配慮やユニバーサル・デザインなどアクセスに関する概念について学びました。その後、態度、情報・コミュニケーション、交通などのアクセシビリティ事例についてビデオ分析や障害者の経験共有を通じ、課題や改善策を議論しました。



(写真) 南アフリカの障害政策について説明する社会開発省マンティピ課長（中央手前）

研修2日目は、建築物のアクセス基準を学ぶとともに、アクセスチェックを実践しました。研修会場の社会開発省マンデニ事務所には車椅子用駐車場がなく、事務所内の案内看板の文字が小さく見づらいことが分かりました。



(写真) 研修会場のトイレ状況を調べる参加者
研修3日目は、参加者が2グループに分かれ、近隣の特別支援学校と社会保障機構事務所のアクセスチェックを実施しました。これら理論と実践を組み合わせ合わせたプログラムを通じ、参加者たちは多様な視点でアクセシビリティをチェックできるようになりました。

アクセス調査員育成研修後の変化！

社会開発省マンデニ事務所では、早速改善に向けて動き出しました。駐車場に車椅子用駐車場スペースを設け、案内表示の文字は大きくしました。駐車場設置においては、事務所スタッフが車場区画のペンキ塗りを行いました。案内表示作成の際は、カラー印刷機を持っているNGOに印刷協力を依頼し、少ない予算で工夫して改善しました。

今後も研修で得た知見を活用し、地域のアクセス調査を実施していきます。



(写真) スタッフでつくった車椅子用駐車場

最新のプロジェクト進捗状況は、
Facebook ページをご覧ください！

JICA SADEM :

<https://www.facebook.com/jicasouthafrica/disabilityempowermentmainstreaming/>

編集:

原田 真帆 Mahoh@dtd.gov.za

上岡 廉 Renk@dtd.gov.za